五行歌の会	きんきサロン通信７月号	発行:きんきサロン　代表・いぶやん 編集長・小倉はじめ No.026　2024.07.14

７月　七夕歌会でした！

７月例会は「七夕歌会」でした。例年酷暑の京都を避け、琵琶湖畔で行う恒例行事でしたが、コロナ禍で中断しておりました。今年は大河ドラマ『光る君へ』にちなみ、紫式部ゆかりの石山寺観光を歌会プランに組み込みました。地元にお住まいの西村康則氏のご尽力により、ガイドさんを得、瀬田の唐橋のたもとにある「滋賀県青年会館」を会場とすることが出来ました。

石山寺は 747 年建立の名刹で、寺名の由来は巨岩の上に直接本堂が建てられているからだそうです。山全体が岩で、今はほぼ木で覆われていますが、境内には塔のような奇石が露出している場所があり、パワースポットとして有名です。ガイドさんのご案内で、国宝の数々、そして紫式部が月を見て源氏物語の着想を得たという窓のある部屋、愛用の硯などを拝観することが出来ました。『蜻蛉日記』『更級日記』の著者もこの寺に参籠しており、また芭蕉の句碑もあり、この拝観の霊験で、きんきサロンメンバーの歌力は以前にもましてパワーアップすることでありましょう。

今回の１席は、亡きひとへの七夕の呼びかけで参加者の心を掴んだ平村幸子さん、２席は夏の解放感を活写した上田貴子さん、３席は２名で、琵琶湖に材を取った玉虫さんといぶやんでした。歌会会場からは湖を行く外輪船の姿も見え、最高のロケーションでした。　　（いぶ記）

【308 回きんきサロン歌会結果】

１
令和の石山詣
五行歌人たちは
どんな足跡を
残すのだろうか
琵琶湖は今日も穏やか
　　坂東和代 12 点

２
月明かりの
石山寺を出(い)でた
光る君は
琵琶湖を渡り
都へ
　　黒田節子 ８点

３
誘ってる
夏の雲を
追いかけて
追い越したら
海現る
　　上田貴子 26 点 二席

４
星を数えているうちに
心のどこかの
無重力なスペースへ
悲しさも淋しさも
奪われてゆく
　　西村康則 17 点 次点

5
ここには
あなたと過ごした
いくつもの足跡がある
今日も元気でやってるよ
不老泉飲んでるし
　　小倉はじめ 12 点
6
ネズミはネズミ
猫は猫
花は花
人間は人間として生き
生き抜く
　　城　雅代 11 点
7
花火を両手に持って
二刀流って
子どもたちより
はしゃいでいた
サザンビーチの夏
　　川原ゆう 11 点
8
ミントの葉に
ひっそりと
ツヤアオカメムシ
反省して
「におい」を消してもらっているの
　　須賀知子 8 点
9
２１世紀の
日本文芸界に
AI は有用だ
有害だ
結論は 5 年後でもいいかな？
　　天河童 ＊
10
生命(いのち)は生きるように
プログラムされています
幸せになるようには
プログラムされていません
なるほど…
　　倭 15 点
11
光る湖(うみ)は
ステージ
比良の風を纏い
千年の華が
舞い踊る
　　玉虫 18 点 同三席
12
天の川で
逢えるのね
書物を少し
持って
行くわ
　　平村幸子 28 点 一席
13
七夕伝説
希望があれば
またがんばれる
君に届くよう
かなえ～たまえ～
　　山﨑美砂子 ＊
14
急な雨
傘を差しかけた時
ぽっと顔を赤らめた
少年
突然に思い出し
　　むつ子 15 点
15
カクレクマノミ
ひとたびペアになったら
片方が死んでも
相手を替えないとか
見習わなくちゃね
　　小林栄子 ＊
16
自分の感受性の水源が
ここにあると
帰郷の度に確認できる
湖国の人が
うらやましい
　　いぶやん 18 点 同三席
17
陽光射しこむ
湖面に向かって
裸足で駆け出す
親子
あの朝よ再び
　　ＨＩＫＡＲＩＫＯ 11 点
18
闇に響くカエルの声
夜半トイレに立ち
耳を澄ませる
わたしたちはどこから来て
どこへ行くのか
　　桑本明枝 15 点

■＊印は 5 点以下。点数非開示。
■（参加者：18 名）天河童・いぶやん・
上田貴子・小倉はじめ・川原ゆう・黒田節子・桑本明枝・小林栄子・倭・城雅代・須賀知子・玉虫・西村康則・HIKARIKO・坂東和代・平村幸子・むつ子・
山﨑美砂子　**●８月例会：8/4 ウイングス京都**

歌会場は瀬田川に面していて眺め最高。ランチ、ビール付きでおいしくいただきました。
（はじめ記）